空法界、護法天等、殊發一大願、圖北斗曼陀羅七鋪、飾七箇之壇場、修百日之密法、其故何者、今年重厄。可慎、運命多畏、雖遁俗累、雖入佛道、觀念不明、戒律難全、于朝于暮、以慙以懼、仍爲懺悔罪障、永保全壽命、專抽精誠、恭敬供養、側聞、北斗七星者、囊括七曜、照臨八方、上耀於天神、下亘于人間、以司善惡、以分禍福、群星之所朝宗、万靈之所俯仰、若有人作曼陀羅、如法供養、禮拜、北斗歡喜、方致擁護、佛陀在上、玄鑒豈疑乎、仰願、北斗七星、還念慈悲、成熟所願、依百日之薰修、彌增百年之壽算、答一心之懇篤、永致一天之安寧、智々之光耀旁朗、消天孽於無形、照々之明鑒遠施、除不祥於未兆、國家安穩、人庶康和、明德惟馨、星宿尚饗、

○按ズルニ、白河法皇、天喜元年ノ降誕ニシテ、康和三年ハ方ニ四十九歳ナリ、

〔大友興廢記十四〕日州江御出陣仰出さるゝ事

天正六年戊寅九月下旬に、大友宗麟公、老中田原紹忍、田北鎮周、朽網宗歴、吉岡鑑加、志賀道輝、幷に軍配者石宗を召して仰出さるゝは、面々存のごとく、我勇力を以て、九州を多分退治し、日州表も、鹽見、日知世、門河、此三ヶ城、又山毛田代の武士も皆相隨ふといへ共、大隅薩摩いまだ其儀なし、此兩國を退治するにおゐては、九州の主とならん、急度思ひ立御出馬をとげられ、先日州高城を攻べし、佐伯惟敎入道宗天と、田北相摸守鎮周に、先陣仰付られんとの御諚也、○略中其時、軍配者石宗申上るは、御諚尤に存候、○略中殊以、當年は御年四十九の御厄に相あたり、弓箭にきらひ所多く御座候、今日仰出さるゝ、御弓箭發端の御詞を以て考へ申にも、不吉也、御年により、弓箭に凶月御座候、十月は午の年の大將の大禍の月、十一月は滅門の月なり、究竟軍御座候はん月、御年に不相應に御座候、今迄の御弓箭は、時日も皆吉事に相當り申候、此度はきらひ道多御座候、明年は合戰御座なくして勝利を得給ふ御年に相當り申候、戰はず利を得るを良將と、昔より申候と申上らるるにも、御同心もなく、御座をたゝせらるゝ、